

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 筑波大学附属坂戸高等学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒 350-0214
埼玉県坂戸市千代田1-24-1

E-mail : gakumu@sakado-s.tsukuba.ac.jp

Website : http://www.sakado-s.tsukuba.ac.jp

児童生徒数：男子 216 名 女子 270 名 合計 486 名
 児童・生徒の年齢 15 歳～ 18 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか (福祉)

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

筑波大学附属坂戸高等学校は平成6年に農業科、工業科、家政科を有する専門高校から総合学科高校へ転身してから21年が経過した。「総合学科」とは、普通科、専門学科に次ぐ第三の学科であり、普通教科と専門教科の中から興味や進路に応じて自分だけの時間割を作成することができることが特徴となる。そうした教科横断的な学習を通して、世の中のあらゆる課題に対して多角的なアプローチから持続可能な社会の創造に寄与することができ、「実学をふまえた総合学科教育そのものがESD実践である」という認識のもと、「総合学科の特色を生かした多角的アプローチによるESD実践」というテーマを掲げ、平成23年1月にユネスコスクールに加盟した。実践概要図に示すようにESDの諸側面としての国際教育、環境教育、福祉教育、食育などの多様な教育分野はもちろんのこと、学校間交流や地域連携、実際に街中に出て活動する社会貢献など、多種多様な教科・科目を有する総合学科だからこそ取り組めるESD実践に取り組んでいる。特に、アジアの高校生とともに学びあう取り組み(高校生国際ESDシンポジウム、国際フィールドワーク、ESD Rice Project)をいくつか立ち上げ、総合学科で学んだ成果をアウトプットする場として力を入れている。これらの活動には英語や国際系に関心の強い生徒だけでなく、むしろ農業や環境、福祉や商業を専門とする生徒が中心となって取り組まれてきた。専門教科を中心に学んでいる生徒が英語などの外国語を駆使して自分たちの学びを伝えようとしており、総合学科高校として理想の国際教育が実践できた。こうした取り組みは11月のユネスコスクール世界大会において、ESD大賞高等学校賞受賞として結実した。平成26年度からは文科省スーパー・グローバル・ハイスクール(SGH)に指定され、ユネスコスクールや海外交流校とのネットワークを最大限に活用しながら、総合学科ならではのESD実践によるグローバル人材の育成をさらに加速させていきたい。

★「国際的視野に立った卒業研究の支援プログラム」

平成20年度より行っている「国際的視野に立った卒業研究の支援プログラム」(以下「卒業研究支援プログラム」)では、3年次の学校指定履修科目「卒業研究」での取り組みのうち、国際的研究を行う、もしくは行うことを考えている生徒に対し渡航費の援助を行っている。このプログラムによって平成20~26年度に計13名の生徒を海外に送り出してきた。それぞれの生徒の研究テーマと活動内容は以下の通りである。今年度は2年次生2名がドイツ、1名がタイに渡航し、それぞれ調査活動を行った。

★「高校生国際ESDシンポジウム@坂戸2014」の開催

第3回目となった今年は、ACCUのESD Rice Project日本代表校の指定を受けていたため、はじめて共通のテーマとして「アジアの食と環境(Asian Diet and Environment)」を設定し、2014年11月12日(水)に筑波大学東京キャンパス3ヶ国5校の生徒・教員を招待し開催した。ESD Rice Projectの同じく日本代表校であった神奈川県立有馬高等学校も参加して、日本国内での交流も広がった。さらに今年度は11月13日(木)に筑波大学農学ESDシンポジウム(Ag-ESD)へも参加し、参加校の活動紹介と本校の国際教育のとりくみ、ESD Rice Projectのとりくみ等を発表。大学生、大学院生に交じりポスターセッションにも参加した。

「アジアの食と環境」というテーマは、持続可能な発展のために何が必要か、高校生として考えるために設定された。持続可能な発展(Sustainable Development)とは、言い換えれば地域社会の発展と自然環境保護の両立を実現することである。そして、私たちの日常生活、衣食住のありかたが環境に与える影響を無視することはできない。今大会では生活に欠かせない要素のひとつである「食」をとり上げ、コメを中心とした洗練された食文化を古代から築いてきたアジアの国々に生活する高校生が、食と環境のつながりの中に課題を発見し解決することを目的とした。シンポジウム期間中、参加する高校生には、地域の伝統的な食生活と環境との共生、そして地域の発展の両立を議論することを求めた。

今回のシンポジウムでは、これまでの大会での経験をもとに、生徒による大会運営に挑

戦した。受付や会場設営、照明や視聴覚機材の操作はもちろん、全体司会やシンポジウムのファシリテーターもすべて生徒で行った。運営した生徒は、今年度組織したS-CIS（生徒国際教育委員会：Student Committee of International Studies）のメンバーで本校の1～3年次生で国際教育活動に興味のある生徒が主体的に参加している。大会後も筑波大学留学生との交流や模擬国連活動等、様々な活動に関わる等活発に活動している。ちなみにS-CISという名称は、教職員の国際教育委員会：CIS（Committee of International Studies）に付随する団体として位置することに由来し、これまで教職員が生徒のために先回りして行ってきた様々な運営を生徒自身が担うことで、先生主導ではない高校生主体の国際交流の実現を目指している。この生徒団体の活発な活動で、まさに高校生による高校生の国際シンポジウムを実現できたと考える。

★国際フィールドワークの実施

本活動はSGHの活動として今年度新たに実施された。今年度は7名の生徒がインドネシアに3週間滞在し、インドネシアの森が100年後も、持続的に存在していくための方法を、現地の高校生と一緒に考え、解決に向けた提案や活動を行った。姉妹校のボゴール農科大学附属コルニタ高校、インドネシア林業省附属高校の生徒とチームを組んで、教育班（国立公園周辺の学校で、環境に関する出前授業を実践）、環境班（ゴミ問題を解決する班）、産業班（森を伐採せずに、生活を営んでいく方法やビジネスの提案）に分かれて精力的に活動した。

★ESD Rice Project

アジア6カ国（日本、韓国、タイ、インドネシア、フィリピン、インド）で「お米」を通じた国際協働学習に取り組む「ESD Rice プロジェクト」に日本代表校として参加した。筑坂では総合学科の特徴を生かして、ESD Rice Project の名のもとで主な学習活動のフィールドを本校農場に造成された水田（1アール2枚、2アール1枚）として、そこで「お米」をテーマに、多様な学びの場や機会を設定した。「お米」や農場での学習は主に、農業や環境の科目で学ばれるが、Rice Project ではここに地理・福祉・国際など多様な生徒を巻き込み、さらには留学生や海外交流校の高校生も加えて、多面的な学びの場として機能させた。主な学習活動としては、1）様々な科目を学ぶ生徒が1年間を通して学校水田を利用した米づくり体験の取り組み、2）総合学科の特色を生かした多角的なアプローチによるお米をめぐる現状の理解への取り組み、3）11月の「高校生ESD国際シンポジウム」の際に開催されたPotluck Partyなど、シンポジウム参加の各学校が自国のお米や食材を持ち寄って、独自のお米料理や伝統料理を調理し、お米を通じた食文化・異文化理解、国際交流の実践、の3点である。

【資料】平成26年度 国際教育・ESD活動一覧（抜粋）

4月	文部科学省スーパー・グローバル・ハイスクール指定
7月	2年生1名がNZへ、3年生2名が姉妹校コルニタ高校・ベルギーに1年留学へ
8月	国際フィールドワーク（インドネシア）、国際フィールドワーク入門（黒姫）実施
8月	月刊高校教育に本校のESDの取り組みの記事が掲載
8月	広島県高等学校教育研究会総合的な学習の時間部会にてESD講演
8月	ユネスコスクール研修会@岡山にて実践発表、分科会講師
9月	ESD Rice Project ワークショップ in マラン（ACCU主催）に教員参加
9月	ESD Japan レポート（文部科学省発行）に本校の実践事例が掲載
9月	2年次総合「インドネシア班」インドネシア・ショップ黎明祭出店

